第４学年　道徳学習指導案

１　主　題　名　　Ｃ－（１１）規則の尊重　　みんなのために

２　教　材　名　　電車内のあきカンのゆくえは・・・?

(出典「日本文教出版 3 年『ジュースのあきカン』」改題・改作)

３　主題設定の理由

1. 子どもの姿について

　　児童は、学校や地域での生活を通して、公共物の使い方や公共の場所でのきまりやマナーを守ることの大切さには気づいている。非常に素直で、悪いことは悪いと言え、きまりやマナーを守る児童が多い。一方で、学校や地域以外の公共の場所のマナーについては、今まであまり取り立てて話題にしてこなかった。

　　そこで、本時は、児童の視野をさらに広げて、不特定多数の人が集まる場所で、なぜ、きまりやマナーを守らなければいけないのか、どんなことに気をつけ、行動すればよいのかということについて具体的な行為を通して考えさせる。そして、みんなが気持ちよく生活していくために、きまりやルールがあるということや、まだまだ自己中心的な考えをもっていたり、正しいことはわかっているが、なかなか行動に移せなかったりする点に気づかせる。

1. ねらいとする価値について

　　本主題は、学習指導要領の内容項目Ｃ-(11)「約束や社会のきまりの意義を理解し，それらを守ること」を中心価値としている。みんなが気持ちよく生活し、よりよい集団生活を営むために守るべき約束事がある。複雑な社会生活や人間関係を円滑にするためには、自分に都合のよい権利ばかりを主張するのではなく、法やきまりを守りながら、義務を果たしていくことが大切である。社会にどうかかわっていけばよいかを考え、今後の社会生活の中でよりよく生きるために、自ら進んで実践できる態度を育てたい。

本時では、電車という公共の場所で捨てられた空き缶の行方を話し合うことを通して、さまざまな人が使う場所では、みんなが気持ちよく生活できるようにしようとする気持ちをもたせたい。

1. 教材について

　　本時は、副読本の「ジュースのあきカン」を、新聞に掲載された記事を参考に、改作・改題した資料を用いる。たくさんの人が利用する公共交通機関である電車内で、転がる空き缶に気づいた主人公が、それをどうしようかと迷う葛藤場面を描いている。電車という公共の場所に捨てられた空き缶の行方を通して、さまざまな人が使う公共の場所では、みんなが気持ちよく生活できるようにしたいという思いをもてるようにする。 また、事前の校外学習の機会を利用して、みんなが使う公共の場所について意識させたり、見学施設や公共物などで気づいたことなどを見つけさせたりして、道徳の時間が各教科等の補充・深化・統合となるよう構想を工夫した。事後は、不特定多数の人が訪れる学校行事の「西小まつり」へとつなげ、学習したことの実践化を図る機会を設ける。

４　子どもの心を揺さぶるための手だて

　・自分の意見を明確にするためのワークシート

　　ワークシートに記入する前に、いくつかの立場を示し、それらを比べ、選ばせる。特に、本時では、主人公のあきらが、電車内に転がっている空き缶を「ける」「よける」「立てる」「捨てる」等のうち、どの行動をとると思うかと問いかけ、その理由を考えさせる。４つの行動を比べさせ、選ばせることで、一人一人の児童が、思いつきや何となくではなく、より明確に自分の立場を選び、そして理由をもつことができる。さらに、記述することで、潜在的な意識を見つめ直し、明らかにすることができる。

５　本時の学習

(1) 目　標

　　　電車という公共の場所で捨てられた空き缶の行方を考えることで、公共の場では、みんなが気持ちよく生活できるようにしようとする気持ちをもつことができる。

　(2) 学習過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習段階 | 児童の活動 | 教師の手だて |
| 導入  （５分）  展開  （35分）  終末  （５分） | １　電車に乗ったときのことを思い出す  ・朝は、通勤や通学の人で混んでいた。  ・赤ちゃん連れのお母さんやお年寄り、目の不自由な人などが乗っていた。  ・お年寄りに席を譲ったことがある。  ２　「電車内のあきカンのゆくえは・・・?」を聞いて、あきらの気持ちを考える  ・お兄さんはよけて、関係ないふりか。  ・お姉さんは缶を立てておいたんだね。  ・あきらは、どんな気持ちだったのかな。  あきらは、どんな気持ちだったのかな  ３　あきらはこの後、空き缶をどうしたと思うか。また、それはなぜかを考え、ワークシートに書く  【捨てる】  ・皆が嫌な思いをするから。  ・誰かが捨てなければずっと転がっている。  【ける】  ・汚いし、靴が汚れたらいやだから。  ・立てたり捨てたりするのはめんどくさい。  【立てる】  ・転がる音がうるさいから。  【よける】  ・自分が捨てたのではないから。  ・拾う勇気がないから。  ４　学級全体で意見交換をする  ・誰かが捨てなければ、ずっと転がって皆が嫌な思いをする。  ・自分にできることをすればみんなも気持ちよくなる。  ・拾わないとずっと転がっているし、うるさいとみんなが嫌な気持ちになる。  ・みんなが見ている中で拾えるか自信がない。  ５　今日の学習を振り返り、公共の場所ではどんなことに気をつければよいかを考える  ・みんなが気持ちよく使えるようにしたい。  ・物や場所は独り占めしない。  ・みんなが使う所ではルールやきまりを守る。  ・みんなが使う物は大切に使い、壊したり汚したりしないようにしたい。 | ○いろいろな人が利用していることを確認するために、電車に乗った経験をたずね、想起させる。  ○電車に乗るときのきまりやマナーを確認するために、知っていることをたずねる。  ○絵を使い、車内の人がとった行動や時間的経過がわかるように実際に缶（教具）を動かしながら順を追って提示する。  ○登場人物が取った行動を多面的に考えられるように、「ける」「よける」「立てる」「捨てる」などがあることを確認する。  ○客観的に考えられるよう、あきらの立場になったつもりで考えるよう助言する。  ○自分の立場を明確にするために行動を示した語意カードの下にネームプレートを提示する。  ○缶を見過ごした人の気持ちや拾って捨てるのは勇気がいることをおさえるために、本当に捨てられるのか、と問い返す。  ○多面的・多角的に考えるために、自分だったらどうするかという視点をもち、学級全体で意見交換する場を設ける。  〇公共の場とは大勢の人が使う場所であることをおさえ、みんなが気持ちよく使い、大切にすることを意識させるために、公共の場には、物、時間、約束、ルールがあることを確認する。  ○自己を振り返り、よりよい生き方を方向づけていくために、みんなのための具体的な意見や行動を認め、称揚する。 |

(3) 評　価

　　　公共の場において、みんなが気持ちよく生活できるようにしようとする気持ちをもつことができたか。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（発言や授業中の様子、ワークシート）